

僕は我武者羅応援団というプロの応援団の団長としてさまざまな人々を応援しています。毎年多くの高校へ「応援」に行っています。高校生だった頃の自分自身が感じていた、悔しかったこと、恥ずかしかったことをすべてさらけ出すと、彼らは僕の話に自分自身を重ね合わせ、熱い涙を流してくれます。

僕は高校1年生の時応援団に入ったのですが、きつくて2週間で逃げ出してしまいました。それがきっかけで自己肯定感を持ってない悶々とした高校生活を送りました。社会人になってからもそのことが頭から離れず、一念発起し応援団をやり始めました。

誰かに求められて始めた応援団ではないので、頭を下げて応援させてもらうところを見つけ、かけつけ、必死に応援し、道なき道を切り拓いて来ました。そして今、多くの人々から応援の依頼をいただけるようになりました。僕が大人になってから応援団を始められたのも、そして続けることが出来るのも応援団から逃げた「後悔」が原動力となっているからです。

高校生には、自分が今感じている不安な感情やネガティブな感情もしっかり味わって欲しい、そして目の前のことにがむしゃらに取り組むと、たとえ結果がどうであれ、一生懸命やった自分のことが好きになるということを伝えています。

僕らが目指す応援とは「自分を信じて生きよう。せっかくいただいたこの命、いつ終わってしまうかわからないこの命だからこそ、お互いに思いっきり燃やそうぜ」と約束をかわすことです。がむしゃらに応援する僕たちの姿を見た彼らが、「自分も思いっきりやってみよう、私も何か頑張ってみよう」と、新たな一歩を踏み出すきっかけになれば最高です。

がむしゃら
おうえんだん
我武者羅
応援団
団長
武藤貴宏

高校時代の後悔が
僕の「応援」の原点です



Takahiro Muto

武藤貴宏

むとう・たかひろ ●東京通信病院手術室出身。高校卒業後、アメリカの大学で野外冒険教育を学ぶ。帰国後アウトドア学校の非常勤インストラクターとして活動。29歳のとき我武者羅応援団を立ち上げ団長に就任。以降、企業、学校、個人からの依頼で年間100件近い応援活動を行っている。著書に「本気で生きる」以外に人生を楽しくする方法があるなら教えてくれ(ディスカヴァー・トゥエンティワン)、「僕らの仕事は応援団。～心をゆさぶられた8つの物語～」(大和書房)などがある。高校での講演活動やテレビ番組出演多数。